

教科	工業	科目	陶芸基礎		
履修条件 対象生徒	選択履修 デザイン科 1学年				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陶芸に関する知識と技術を習得し、実際に活用する能力を身に付ける。</li> <li>・各課題で使用する素材の特性を理解し、それに適した成形・加飾技法を判断し、「制作者」として「消費者」が“使いたい”と思えるような表現力を養う。</li> <li>・地域の伝統工芸である砥部焼をはじめ、他産地の素材や成形方法など自ら学び、工芸の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</li> </ul>				
学習方法	<p>[授業]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・陶芸道具の使い方や技術を身に付けるため、多様な課題に取り組む。</li> <li>・各課題にポイントとなる条件を設定し「制作者」として使う器の制作に取り組む。</li> </ul> <p>[家庭学習]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制作した作品を実際に使い、「消費者」として器の考察を行う。</li> </ul> <p>[補習・その他]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時間内に完成しない課題は、放課後等の時間を使って完成させる。</li> </ul>				
学習計画 と ねらい	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>1 道具 (1) 道具づくり (2) 道具の使い方 (3) 成形の仕方</p> <p>2 土 (1) 焼き物の制作工程 (2) 土づくり</p> <p>3 ロクロ技法 (1) ロクロ成形 (2) 削り</p> <p>4 手びねり技法 (1) 手びねり成形 (2) 削り</p> <p>5 タタラ板技法 (1) タタラ成形 (2) 削り</p> <p>6 釉薬 (1) 釉薬とは (2) 釉薬づくり</p> <p>7 乾燥と素焼き</p> <p>8 釉薬がけ</p> <p>9 本焼きと窯出し</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>○成形のための道具をつくる。</li> <li>○成形のための道具の使い方を理解する。</li> <li>○成形の技術を習得する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○焼き物の制作工程を学ぶ。</li> <li>○原料の採取や土練の技術を習得する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○土殺し、土取、成形、削りの基本を学ぶ。</li> <li>○ロクロの技術を習得する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○手びねりの技術を理解する。</li> <li>○蓋付小物入を制作し技法を習得する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○タタラ板の技術を理解する。</li> <li>○取り皿、鉢を制作し技法を習得する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○釉薬のはたらきと性質を理解する。</li> <li>○蜜柑や雑木の灰を使って天然釉をつくる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○作品が割れないように、ゆっくりと乾燥させる。</li> <li>○窯詰め技術を習得する。</li> <li>○釉薬がけの方法を理解する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○窯の種類、焼成方法を理解する。</li> </ul> </td> </tr> </table>			<p>1 道具 (1) 道具づくり (2) 道具の使い方 (3) 成形の仕方</p> <p>2 土 (1) 焼き物の制作工程 (2) 土づくり</p> <p>3 ロクロ技法 (1) ロクロ成形 (2) 削り</p> <p>4 手びねり技法 (1) 手びねり成形 (2) 削り</p> <p>5 タタラ板技法 (1) タタラ成形 (2) 削り</p> <p>6 釉薬 (1) 釉薬とは (2) 釉薬づくり</p> <p>7 乾燥と素焼き</p> <p>8 釉薬がけ</p> <p>9 本焼きと窯出し</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○成形のための道具をつくる。</li> <li>○成形のための道具の使い方を理解する。</li> <li>○成形の技術を習得する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○焼き物の制作工程を学ぶ。</li> <li>○原料の採取や土練の技術を習得する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○土殺し、土取、成形、削りの基本を学ぶ。</li> <li>○ロクロの技術を習得する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○手びねりの技術を理解する。</li> <li>○蓋付小物入を制作し技法を習得する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○タタラ板の技術を理解する。</li> <li>○取り皿、鉢を制作し技法を習得する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○釉薬のはたらきと性質を理解する。</li> <li>○蜜柑や雑木の灰を使って天然釉をつくる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○作品が割れないように、ゆっくりと乾燥させる。</li> <li>○窯詰め技術を習得する。</li> <li>○釉薬がけの方法を理解する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○窯の種類、焼成方法を理解する。</li> </ul>
<p>1 道具 (1) 道具づくり (2) 道具の使い方 (3) 成形の仕方</p> <p>2 土 (1) 焼き物の制作工程 (2) 土づくり</p> <p>3 ロクロ技法 (1) ロクロ成形 (2) 削り</p> <p>4 手びねり技法 (1) 手びねり成形 (2) 削り</p> <p>5 タタラ板技法 (1) タタラ成形 (2) 削り</p> <p>6 釉薬 (1) 釉薬とは (2) 釉薬づくり</p> <p>7 乾燥と素焼き</p> <p>8 釉薬がけ</p> <p>9 本焼きと窯出し</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○成形のための道具をつくる。</li> <li>○成形のための道具の使い方を理解する。</li> <li>○成形の技術を習得する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○焼き物の制作工程を学ぶ。</li> <li>○原料の採取や土練の技術を習得する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○土殺し、土取、成形、削りの基本を学ぶ。</li> <li>○ロクロの技術を習得する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○手びねりの技術を理解する。</li> <li>○蓋付小物入を制作し技法を習得する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○タタラ板の技術を理解する。</li> <li>○取り皿、鉢を制作し技法を習得する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○釉薬のはたらきと性質を理解する。</li> <li>○蜜柑や雑木の灰を使って天然釉をつくる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○作品が割れないように、ゆっくりと乾燥させる。</li> <li>○窯詰め技術を習得する。</li> <li>○釉薬がけの方法を理解する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○窯の種類、焼成方法を理解する。</li> </ul>				
評価基準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	陶芸に関する知識と技術が習得できており、実際に活用する能力が身に付いている。	与えられた素材を理解し、適した成形・加飾技法を判断し、「制作者」として「消費者」が“使いたい”と思う表現力が身に付いている。	地域の伝統工芸である砥部焼をはじめ、他産地の素材や成形方法などを理解し、工芸の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○評価の観点：「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的な評価を行う。</li> <li>○授業では、発表や話し合いなどの言語活動、レポート、演習への取組など生徒の主体的な活動を重視する。</li> <li>○制作では、制作意図、制作過程、自己分析、鑑賞などの取り組みを重視する。</li> <li>○以上を総合的に判断して評価する</li> </ul>				